

「農産物の安全・安心及び農業の環境配慮」についてのアンケート報告

三重県では、平成21年3月に「みえの安全・安心農業生産推進方針」を策定し、県民の皆さんの協力も得ながら、いっそうの「安全・安心な農産物の提供や環境に配慮した農業の取組」を進めているところです。

ついては、県民の皆さんが、農産物の安全性や農業における環境配慮に対してどのように思われているかを把握し、今後の施策の参考にするために、アンケートを実施しました。

アンケートにご協力いただきましたe-モニターの皆さまにお礼を申し上げますとともに、アンケートの実施結果を、下記のとおりご報告申し上げます。

同アンケートの内容及び回答集計については、e-モニターのホームページ（下記リンク先）をご覧ください。

<http://www.e-kocho.pref.mie.jp/monitor/?a=top:enquete>

1 アンケート実施期間

平成22年1月22日（金）から2月9日（火）まで

2 意見募集の結果

(1) 対象者数 1,502名

(2) 回答者数 1,032名

(3) 回答率 68%

3 属性

(1) 性別 男性：55%、女性：45%

(2) 年代別

20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
8%	22%	26%	23%	15%	6%

4 アンケート結果

Q1

どんな農業が人に対して安全性の高い農業と思うか伺ったところ、「農薬の使用を控える」との回答が33%、「生産工程が適正に管理されている」が27%、「生産情報を知ることができる」が24%、「化学肥料の使用を控える」が13%でした。

なお、Q4で記載していますように農薬については安全性を確保するための試験が行われており、その試験に合格したもののみが農薬として使用されています。

また、県では平成21年度から、生産工程が適正に管理されるよう、生産現場でのGAPの導入を進めています。

Q2

どんな農業が環境にやさしい農業と思うか伺ったところ、「資源をリサイクルして、たい肥等に利用する」との回答が34%、「農薬の使用を控える」が29%、「省エネルギー機器や自然エネルギーを活用する」が19%、「化学肥料の使用を控える」が14%でした。

県では、農薬や肥料の効率的利用を進めるとともに、資源やエネルギーについても効率的利用を進めていくこととしています。

Q 3

農薬の使用についてどう思うか伺ったところ、「適正使用であればよい」との回答が44%に対して、「使用しない方がよい」が50%、「使用してはいけない」が4%でした。

Q 4

農薬の安全性試験が行われていることを知っているか伺ったところ、「よく知っている」との回答が1%、「知っている」が25%に対して、「あまり知らない」が55%、「知らない」が17%でした。

Q 5

化学肥料の使用についてどう思うか伺ったところ、「適正使用であればよい」との回答が52%に対して、「使用しない方がよい」が41%、「使用してはいけない」が3%でした。

Q 6

GAPについて知っているか伺ったところ、「よく知っている」との回答が0%、「知っている」が7%に対して、「あまり知らない」が27%、「知らない」が64%でした。

まだGAPという言葉は聞き慣れない言葉ですが、県では今後、県民の皆さんに知っていただけるよう、普及に努めていきたいと考えています。

Q 7

有機JASマークについて知っているか伺ったところ、「よく知っている」との回答が19%、「知っている」が53%に対して、「知らない」が27%でした。

Q 8

有機JASマークを「よく知っている」又は「知っている」方(計753名)に有機JASマークのある農産物をここ1年の間に購入したことがあるか伺ったところ、「購入したことがある」との回答が59%、「購入したことがない」が8%、「わからない」が32%でした。

Q 9

有機農産物に対してどのようなイメージをもっているか伺ったところ、「安全面で優れていると思う」との回答が33%、「値段が高いと思う」が21%、「環境に貢献していると思う」が16%でした。その他回答として、「味で優れていると思う」、「栄養面で優れていると思う」、「外観が悪いと思う」、「健康増進に効果があると思う」等がありました。

Q 10

特別栽培農産物の表示について知っているか伺ったところ、「よく知っている」との回答が6%、「知っている」が23%に対して、「知らない」が69%でした。

Q 1 1

特別栽培農産物の表示を「よく知っている」又は「知っている」方（計312名）に特別栽培農産物をここ1年の間に購入したことがあるか伺ったところ、「購入したことがある」との回答が58%、「購入したことがない」が19%、「わからない」が21%でした。

Q 1 2

現在、何を基準に農産物を購入しているか伺ったところ、「鮮度」との回答が29%、「値段」が23%、「国内産である」が20%でした。その他回答として、「味」、「外觀」、「表示マーク」、「遺伝子組換え情報」等がありました。

Q 1 3

農産物購入の基準として、環境への影響についての表示をどう思うか伺ったところ、「購入基準の1つとして、重要視する」との回答が11%に対して、「購入基準の1つとなるが、そうは重要視しない」が48%、「基準にはならない」が25%、「わからない」が13%でした。

Q 1 4

ここ5年の間に農業の生産現場を訪れたことがあるか伺ったところ、「訪れたことはない」との回答が28%に対して、「家庭菜園を行っている」が27%、「観光農園でもぎ取り等を行った」が16% 等でした。

Q 1 5

県が「安全・安心な農産物の提供や環境に配慮した農業の取組」を進めていることについて知っているか伺ったところ、「よく知っている」との回答が3%、「知っている」が20%に対して、「あまり知らない」が47%、「知らない」が28%でした。

Q 1 6

県が「安全・安心な農産物の提供や環境に配慮した農業の取組」を進めていることについてどう思うか伺ったところ、「積極的に進めるべき」との回答が69%、「どちらかというに進めるべき」が20%でした。

県では、県民の皆さんの期待に応えられるよう「安全・安心な農産物の提供や環境に配慮した農業の取組」をいっそう進めていくとともに、そのような取組に対する県民の皆さんの理解を深めていただく環境づくりを進めていくこととしています。